



—暑い夏も過ぎ、又秋が来ましたね。「秋」というと、私は確か、2002年でしたか日暮里サニーホールで行われた「五方舞II・シナウイ」の公演を思い出します。

寿玉—秋：？ あれは12月で、冬でしたよ。

—いえ、舞台に描かれた「春夏秋冬」の文字です。冬と秋が逆になっていて、訳をうかがったら、「寒くて辛い冬の後に、実りの秋が来ることを信じているの」とおっしゃったこと。あれから6年目の秋が来て、また趙寿玉の「五方舞」が戻ってくるなあと思っていたのです。

寿玉—よく覚えてますね。

—それで、以前に出されたCDにも入っていますし、また「シナウイ」の時にも踊られた「散調舞」について、少しお

# 散調 — 「春夏冬秋」

話をうかがいたいと思います。

寿玉—あの「シナウイ」のテーマは「散調舞」です。実は、私が散調舞を最初から最後まで作ったのはシナウイの時が最初なのです。

—「散調」：と言うのは、楽器演奏の音楽としても取り上げられる、少し複雑なリズムを持つ曲ですね。

寿玉—そうですね。厳しく、辛口のチニャン、重く勇壮なチュンモリ、踊り心を際立たせるチュンジュンモリやクッコリそして速くなり佳境に入っていくチャジュンモリ、フィモリそして最後にチニャンに戻っていく。私が「散調」に出会ったきっかけは、81年に李世煥先生にカヤグムを習っていたときです。

—李世煥先生から「散調」を習ってらした？

寿玉—ええそうですね。しかし当初はこのような難しい流れを踊りたいという発想は皆無

でした。が、一度日本に戻り何年かして先生をお訪ねした時のことなのです。先生に習っている生徒さんが玄琴の散調を練習しているのが聞こえてきたのですけれど、魂をかきむしるかの様にスルテ(パチ)を打ち下ろしたかと思うと撫でるように、ささやくように切ない音を出す。その時初めてこんな曲で踊ってみたいと思いました。日本で池成子先生にカヤグムを習い始めました。研ぎ澄まされた世界とこれ以上は無というような柔らかな瞬間、身体中の琴線にジンジンと振動を起こしていくような師の音に触れ益々その思いは募るばかりでした。

—その頃から散調舞のお稽古が始まったのですか？

寿玉—いいえ。散調舞を習いたくても、なかなかチャンスがなかったのです。日本に戻ってきて崔鐘実先生という農楽を中心に踊っていらっしゃる踊り心のある先生に習ったのが最初です。次に友人の紹介で韓国の知る人ぞ知る裴明均

という年配の先生に習いました。この方は、ご自分で踊るのではなく、その人にあったスタイルを口伝で教えてくださる方でした。その先生から7/8分の作品を習いました。いつか、自分で散調舞を作りたくて、創作舞踊をしている方にも振り付けを習ったことがあります。

—シナウイの「散調舞」が生まれるまでに、さまざまの変遷、込められた思いがあったのですか？

寿玉—ええ、でもまだずっと踊り続けて変えていきたい音楽の「散調」には、さまざまにな流派があります。多くの人々の手によって作り上げられて



来たものの素晴らしさが息づいています。また、それぞれの楽器の散調があります。中でも玄琴の、音が心の琴線に触れる「気の充実」とでも言うのが好きですね。

—ジャンルは違いますが、心を修めるための「礼学」としての音楽と通じるようなところがありますね。

寿玉—そうですね。サルプリとイプチュムはある意味で、感情におぼれるようなところが許される世界なのですが、散調は、感情に振り回されないセルフコントロールが必要。な世界だと思えます。自由に踊れそうに見えて、実は限りなく奥の深い世界。練習生の方々にも、基本を習って体が動くようになったら是非、散調舞の魅力に触れて深めていって欲しいと思っています。

## 主婦の目線で見た 「韓国」を伝えたかった

来る10月10日、6年ぶりに行われる趙寿玉先生の単独リサイタルを主催する「自由が丘コリアンキャッツ」の川勝敬子さんにお話を聞きました。

「まずは、趙寿玉先生とどのような縁で交流するようになったのか、お話をただけですか？」

1992年から1997年まで夫の仕事の都合で韓国に住んでいたのですが、私の息子と趙寿玉さんの娘さんが同じ学校に通っていたんです。知り合うきっかけは、現在、ポジャギ（韓国のパッチワーク）の先生をなさっている島崎昭子さんに誘われて韓国舞踊の公演を観に行ったことです。その頃、私はPTAのイベント担当をしていたものから、ぜひ、学校で韓国舞踊の公演を行いたいと思い、寿玉さんをお願いしました。お客様は学校関係者だけでなく日本人会の人たちにも呼びかけました。大勢の方に集まっていた上に反響もあり、韓国でのよい思い出になりました。

そうして寿玉さんが私より1年早く日本に戻ったのですが、私が帰国した頃にはすでに幅広い活動をなさっていました。彼女の踊りにすっかり魅せられていた私は、公演があるたびにお手伝いさせていただくことにしました。

「それから数年経った今では、御自身が主催なさっている「自由が丘コリアンキャッツ」として公演の企画するまでに至っています。それまでの経緯について教えてください。」

韓国から日本に戻ってきて、「主婦の目線で見えてきた韓国」を伝える活動をしたいなと自然に思うようになったんです。また、こういった行動をきっかけにいろんな人と出会うこともできるだろうという考えもありました。そしてまず最初に、我が家を開放して、寿玉さんに頼んで、韓国舞踊に親しむ会3回シリーズを行い、その後も韓国料理を楽しむ会、ポジャギ展覧会などもやりました。しかし、会場が「川勝さんのご自宅」だと、お客さん

ちが来にくいかなと思い、名前をつけることにしたんです。家族全員であれこれ考えたのですが、いいアイデアはまったく出てこなくて……。

それで、半分諦め気分でお手洗いに入った際に、壁にズラリと飾っておいた猫の置物をみて「あ、コリアンキャッツだ！」と。ほかにも聞いたことのないネーミングでした。そこで家族も賛成しました。

そうした活動のなかで、寿玉さんを撮り続けてきた康欣和さんの写真展と写真集の出版記念の集いを行ったのですが、そのときの達成感から、外でも何かイベントをしてみようと思うようになりました。

「それが「コリアンキャッツ」が企画した、韓国にもルーツを持つ歌手の沢知恵さんのリサイタルや古今亭菊千代さんの韓国語落語の公演だったんですね。」

今では、世田谷区の奥沢駅前に韓国食材店としてのコリアンキャッツの拠点を構えるまでになりました。ここではほかにどんな活動をなさっているのですか？


韓国語のレッスンは以前から行っていますが、最近始めたのはポジャギ教室と韓国の伝統楽器であるタンソ教室で

す。ポジャギ教室は私が率先したというよりは、ここに来るお客様たちとお話をしているうちに「ポジャギを習ってみたい」という声がちらほらでてきたのがきっかけです。ポジャギはチュムパンの会の辛錦玉さん、タンソは寿玉さんの師匠である李世煥先生のお弟子さんである朴善英さんが講師です。

「今後、コリアンキャッツをどのように展開していきたいとお考えですか？」

元々、いろいろな人たちが自然に集まれる場にしたというのが動機だったのですが、今後もしようとした部分を大事にしていきたいですね。これまでの活動は何か大きな目標やこだわりがあったというわけではなく、自分がやりたいと思ったことを自然に行動に移らそろそろ、具体的な計画やビジョンを立てたほうがいい

**五方舞Ⅲ 砂雁抄**  
2008年10月10日(金)  
開演…15時・19時30分  
場所…めぐるパーシモン小ホール  
主催…自由が丘コリアンキャッツ  
問い合わせ…03-3720-1125 12時～18時  
日曜定休  
Mail:koreannet@hotmail.com  
後援…韓国文化院  
協力…趙寿玉チュムパンの会



かなとも思ってもいません。でも、無理して楽しくなくなるかと、続かないです。難しい課題です(笑)。

あとは、これからも多くの人たちに寿玉さんの踊りを観ていただく企画を続けていきたいですね。

10月10日の公演は「毎年、秋になったら寿玉さんの踊りが見れるといいな」と思っています。企画したのですが、これから毎年1回できたら、と考えています。観に来てくれた方々の心が温かくなるような公演になると思います。

# 詩人 金時鐘をむかえて

## 音と、詩と、舞と、

森 眞理



夏の夜、蛍のように心の泉に舞い降りた精霊たちと共に、「ここより遠く、よりこのここに近く」詩人金時鐘をむかえて音と、詩と、舞と、Inter Music Festival 2008を見せていただきました。

詩人で教師でもある金時鐘さんの詩を事前に読ませていただきましたが、難しく、私の頭の中では、詩の文字だけが飛び交っていました。

ライブで、詩の朗読とお話で、あの激動の時代を生き抜くことの、生きてこられたことへの先人への鎮魂と感謝の『詩』なのだ、そして、先人達の上に、今日、私たちが生きて居ることを忘れてはいけないと理解しました。

韓国ドラマでもよく耳にする「クレメンタイン」、この歌を金時鐘さんは、韓国の歌と思われていたそうです。それは、お父様が、唯一、母国語で歌ってくださった歌。でも後になって我が故郷のもの

ではないと分かった時の落胆さは、共感できます。

趙寿玉先生の衣装は、初日は生成りの玉紗（オクサ）、クレマチスと言う花の色に似ているなど思いました。

二日目は白の麻、地紋様入りのスゴン、川が流れる雅のように舞台へと、若き音楽家の郭宰赫さんのピリ、金龍河さんのヘグム、カヤグムで有名な張理香さん、スゴンとチマが音の風をはらんで舞い上がる。

先生のサルプリ舞を見て、感じたことは、亡き人への思い尽くせぬ思いを、その思いをどこかに届けてくれる、そして見終わった後、心癒され、小

さなため息が一つ、今思い返すと、こんな表現になります。

原稿を書いている途中に、サルプリ舞を理解していない私は、五月の発表会のパンフレットを探し、サルプリ舞の項目を読みました。そこには、白い布を持ち、あたたかも踊り手が観客の心のひだを紡いでいくかのような、と書かれていたので、少し満足しています。

二夜とも、とても蒸し暑い夜でしたが、帰り道は、心地よい風が吹いて、韓国語でシウォナダ\*がびつたりの言葉でした。

\*シウォナダ(시원하다)：すっきりする。すずしい。冷えて心地よい。





# なぜ韓国舞踊なのか

渡辺 由里

友達や職場の仲間に韓国舞踊を始めたと言うと、なぜ韓国舞踊を始めようと思ったのかと聞かれることがあります。なぜかと尋ねられても、それは自然に生まれた感情ゆえ、私にとっては何ら特別なことではありません。韓国と日本の国や文化の違いなど様々な違いはあっても、美しいものを美しいと感じる心は同じでしょう。魅了される踊りが目の前にあれば、見ていたい、踊ってみたいと思うことは自然なことだと思います。

数年前、日本に韓流ブームがやって来ました。最初はドラマや映画の面白さにはまり、それらを見ていううちに韓国の文化に興味を持ち始め、その延長線上に韓国舞踊はありました。韓国のインターネットサイトで扇を持った女性たちが踊る姿に魅了され、その美しさに憧れて舞踊を始めることになったのです。

また、自分で踊ろうと思うまでには、やや時間がかかりました。たとえばクラシックバレエは教室や生徒の数も多く、習おうと思えばいつでも始めることができます。しかし、周りで韓国舞踊を習っているという人の話を聞いたことはなく、ただ美しい舞踊の存在を認識するのみで、日本で習えるとは思っていませんでした。

数年が経ち、韓国語教室に通い、韓国の映画を見たり音楽を聴いたり、それなりに充実した日々を過ごしていました。しかし何か物足りなさを感ずるようになり、何かやりたい、何かしたいと思ったり、何かかきやりの舞が脳裏に浮かび、韓国舞踊を踊りたいという気持ちで芽生えました。そして、本当に日本で韓国舞踊を習えるところはないのだろうかと思い、インターネットで探して辿り着いたのがチュムパンの会、趙寿玉先生でした。



幡ヶ谷教室で舞踊を

## ◎活動報告

◎ 2008年7月25日(金)、26日(土)

INTER MUSIC FESTIVAL 2008 「じつより遠く、よりこのこに近く」詩人・金時鐘をむかえて 音と、詩と、舞と」に出演。

東京 Res Art Court にて  
共演者・金時鐘、金龍河、郭宰赫、張理香、原田依幸、小山彰太、他

◎ 2008年8月10日(日)

民衆の鼓動 韓国美術のリアリズム 1945-2005 ミュージアムコンサート「韓国伝統舞踊」に出演。  
東京 府中市美術館 エントランスホールにて  
演目・僧舞、扇の舞、杖鼓舞

◎ 2008年9月5日(金)

今に生きる古典と現代の粋を楽しむ会 Aoyama Classics Vol.2 「舞とソリ」に出演。舞とソリ(音)を今にたのしむ」に出演。  
東京 (Cherry) アンレヴ(青山)にて  
共演者・張理香、友情出演・朴根鐘  
演目・教坊クッコリ、サルプリ舞、珍島アリラン

## ◎今後の予定

◎ 2008年10月10日(金)

五方舞Ⅲ 「砂雁抄」  
東京 めぐるパシモン小ホール(めぐろ区民キャンパス内)にて  
昼の部・15時から。夜の部・19時30分から

◎ 2008年10月13日(月・祝)

民団鳥取県本部シオレマダン 趙寿玉チュムパンの会  
公演

鳥取 東伯郡琴浦町日韓友好交流公園風の丘公園内  
「待風亭」にて

◎ 2008年11月13日(木)

神奈川緑園保育園内緑園サロン 午前11時から

◎ 2009年2月28日(土)

つながる歌 つながる舞 つながるいのち  
戦争と女性の人権博物館建設のためのチャリティーコンサート 八ヶ岳(東京)

◎ 2009年3月20日(金)

減紫月 韓国伝統音楽舞踊公演 咸洞庭月流 カヤゲム散調 VOICES  
東京 鏡仙会能楽堂(青山) にて

お問い合わせはチュムパンの会事務局へ 03-3269-3258 趙富子